

第2回総会開催される

—— 平成11年度支部結成をめざして ——



去る10月25日に「石川県重症心身障害児(者)を守る会」の第2回の総会が医王病院で32名の参加者で開催されました。今回は来賓として福井県支部の会長である富田氏をお招きして福井での運動の進め方についてもお話を聞くことができました。会長の挨拶に続いて副会長より1年間の活動の報告がされました。

何と言っても会員が50名を突破したことは前総会からの大きな前進でした。また、全国守る会の要請で昨年初めて取り組んだ巡回療育相談でも能登地区の方の通院相談に応じたり、金沢地区では就学前のお子さんの相談に応じたりしました。この相談を通じて病院や児童相談所と新たなつながりができた方もおられて、この会の役割を感じることができました。

さらに、来年には「全国守る会」の支部を結成することについても話し合いました。石川は全国でも数少ない支部未結成の県でもあり、本部からの要請もあって平成11年には支部結成を目指すことを確認しました。

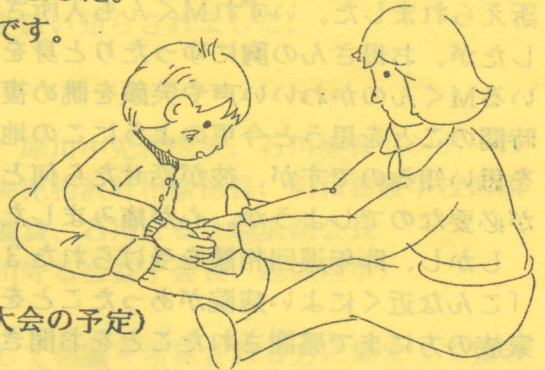
富田さんからは福井で国療の敷地内に親子で宿泊できる施設「レストハウス」を建設した経過とその運営について話して頂きました。石川でも同じような要望があり、今後の活動の参考にもしていきたいと思いました。

承認された今後の活動と役員は以下の通りです。

今後の活動

- (1) 会員の拡充
- (2) 行政担当者との懇談 (年4回程度)
- (3) 重症児(者)の家族の相談活動
- (4) 親子の集いの継続・充実
- (5) 隣県の事業見学
- (6) 支部結成 (平成11年8月1日午後結成大会の予定)

新役員の紹介



会 長	益子佳苗	
副会長	山本衛	越坂由紀子
理 事	石川克巳	西田淳子
会 計	梶田理美	新保修三郎
監 事	隅田陽子	越坂忍
広報部	西田淳子	堂本禎三
会員部	能登地区 (山村多恵子)	金沢地区 (隅田陽子)
	医王病院 第一 (中野外男)	加賀地区 ()
		第二 (松坂須美栄 山田美智子)

貸し出しします

勉強会などにご利用下さい。

※ビデオ 「重症児とともに」・・・重症児(者)の医療と介護

心身に重い障害を持つ重症児を介護する場合の基本、ポイント、注意点などを映像を通じてわかりやすく解説してあります。また、日常介護に加えて吸引法やチューブの入れ方や蘇生法など医療的な面の解説も含まれていて、重症児に接するための基本的知識が網羅されています。さらに、実生活上の様々な工夫なども紹介されています。

◆第1巻 介護の基本(抱き方、姿勢、食事の工夫・・・など)

◆第2巻 摂食と呼吸(嚥下、呼吸の基本原理と対応のしかたなど)

◆第3巻 救急蘇生、生活の充実(蘇生法、重症児の生活など)



各巻約1時間 VHS

日浦氏の講演会大成功

会報№7でお知らせした横浜訪問の家「朋」の日浦美智江さんの講演会が11月3日福祉会館で開催されました。当日は保護者の方々をはじめ教師、施設職員、看護婦、医師、学生など幅広い人達が会場に入れにくいくらい参加されました。講演を聞いた人は220人余り、子ども達が40人余り、保育ボランティアが50人と、100人以上の人が集まりました。「石川守る会」からも準備委員をはじめ遠くは来からも参加されました。

日浦さんのお話はとてもわかりやすく、横浜の重症児を持つお母さん達と通所施設「朋」をつくるまでの感動的な取り組みや運動の基本的な考え方などをていねいに話されました。また現在の「朋」での活動についてもスライドを通して伝えられました。障害の重い人たちが生き生きと青春を楽しんでいる様子が伝わってきました。「親が元気な内に安心して子どもを託せる人を作っておくことが結局は長く在宅でいっしょに過ごせることにつながる」「障害をもつ人たちや家族を孤立させないで、みんなが生きていてよかったと言える社会にしたい」などのことばが心に残りました。

新入会員の紹介

全国守る会・石川守る会・・・正会員

木下太加男 下村甚了 山下信次

全国守る会・石川守る会・・・賛助会員

板野かず子

現況 正会員 54名
在宅・入所を含む
賛助会員 19名

展覧会のお知らせ

本会の会長である益子佳苗さんの個展が12月に開催されます。

益子佳苗「色」展

12月20日～12月25日

ギャラリー蛇の目

金沢市片町1-3-30

柿の木畠の蛇の目本店の向かいです
お近くにお越しの折にでもどうぞお立ち寄りください。



第2回巡回療育相談をおえて

前号でもお知らせしたように11月10日、11日の両日全国守る会主催の巡回療育相談が実施されました。1日目は能登地区を昨年同様個別訪問し、2日目は加賀地区で集合相談を行ないました。

能登地区

対象

2名(鹿西町、蛸島町)

スタッフ

七尾病院松島院長、高橋病棟婦長、七尾児相浦田判定係長、
全国守る会職員、石川守る会越坂副会長
移動用車運転(石川守る会益子会長、越坂理事)



相談内容

14才のS君は現在訪問教育を受けていて介助すればつかまり立ちもでき、這い這いで移動もできる。玄関の扉の外に楽しいことがあることを知っていて1日の大半を玄関で過ごしているようでした。色々なものに興味は示すのですが、長続きせず、落ち着きのないようすがめだちました。松島先生は食事の場面で目と手の協応の訓練ができないか、また音や音楽に興味を持たせることで情緒的にも落ち着き、認知も高まるのではないかとアドバイスされました。

保護者の方からは緊急一時の利用の際の手続きの簡便化をはじめとする福祉の充実の要求もだされました。

昨年度相談を希望されながら遠くて訪問できなかった5才のM君は1年の間に児相とも連絡を取り合いお母さんの休息のための緊急一時入院を3回利用されたとのことです。今一番困っていることは近くにリハビリをうけるところがないということでした。また、同じ立場の親達で集まりをしようにも、ほとんどの家庭が子どもを入所させているので相談できる友達もいないと訴えられました。改めて過疎地で重症児を育てることの難しさを思い知らされました。

加賀地区

対象

4名

スタッフ

医王病院石川院長、犀川小児科医長、石川療育センターわき本療育課長、中央児相沢村相談係長、明和養護学校西田教諭、全国守る会職員、石川守る会越坂副会長
移動用車運転(石川守る会益子会長、越坂理事)



相談内容

小松市のサンアビリティーズを会場にして相談を希望される方に集まって頂きました。4名とも就学前のお子さんで近くの精神薄弱児通園施設に通っているとのことです。この施設で身体に障害を合わせ持っているのは相談を受けた4名だけだそうです。お母さん達の悩みのひとつは近くの施設で理学療法士による訓練が受けられず金沢の病院まで通わなければならないことでした。立派な施設は作るがニーズに応じたスタッフが揃わないという福祉面の問題点が浮き彫りになっていました。また、就学のことについても、子どもの状態に合った学校に家から通わせたいと願っておられ、そのためには教育委員会等への働きかけが必要になってくると思われました。



巡回療育相談に参加して

石川守る会 越坂由紀子

今年2回目の石川県での巡回療育相談にも昨年同様参加させてもらいました。

前夜から北陸独特の雷鳴が轟き、冬型の天候になるのではと心配しましたが、翌朝は青空になり、ほっとしました。1日目は2台の車に分乗して鹿西町、奥能登の蛸島町と訪問しました。移動中、時折降る雨のあとには必ずといってよい程七色の虹がかかりました。それは「守る会」の最大の眼目である『最も弱いものをひとりももれなく守る』の基本方針に添って、障害児（者）の幸せのために石川守る会が行政や地域の病院・施設などへのかけ橋になることを象徴しているようにも思われいつまでも目で追っていました。

最初の訪問先のSくんは14才で訪問教育を受けていました。お母さんは私達に今までのご苦勞を堰を切ったように話され、松島先生のアドバイスも「現状ではしとあげたくても、もう少し行政や地域や学校の援助がなければできない。」また、福祉制度についても「緊急一時保護なども利用したくても突然の場合は手続きがむずかしく、利用しにくい。電話などで手続きできるようになればりょうしやすいのですが」と手続きの簡略化を希望されました。共働きの両親は「子どもは家の宝」と言いきられるほど精一杯の愛情をそそいで育てられているようですが、夜勤明けのお父さんが日中Sくんのお世話をしながら仮眠をとるという生活は無理を重ねておられるようで何か善処できる方法はないかと願わずにはいられませんでした。

また、昨年希望されながら、余りに遠くて訪問できなかった5才のMくんは昨年のことがきっかけで児相が相談にのってくださり、七尾病院での緊急一時入院も利用されていたことを知り、嬉しく思いました。お母さんは近くに訓練できる施設がないことや、同じ立場で相談できるお友達がいないことが最も困っていることだと訴えられました。いずれMくんも入所させることに踏み切りたいと打ち明けられましたが、お母さんの胸にゆったりと身をゆだねて、笑いかけや歌声に全身で応えているMくんのかわいい声や笑顔を眺め複雑な思いでした。Mくんの家までの距離や時間のことを思うと今更のようにこの地で障害児（者）を在宅でみることの困難さを思い知るのですが、彼が話せたら何と答えてくれるのでしょうか。どんな手助けが必要なののでしょうか。心が痛みました。

しかし、昨年巡回相談を受けられた3人の方々はその後、七尾病院を受診され、「こんな近くによい病院があったことを知らず、教えてもらって有り難かった」と家族の方にまで感謝されたことをお聞きし、「私達の巡回療育相談がお役にたっている・・・」と痛みの中で救われる思いでした。

今回の巡回療育相談を終えて痛切に思ったことは松島院長の「もっと早くにあの子たちと出会えていたら・・・」という一言でした。障害児を抱え誰に相談することもできず一人で悩んでいる方がどこかにいる筈なのに、その方々にたどりつけないもどかしさを常に感じています。就学前、また、学校を卒業して社会からとり残され母子で家から動けないでいる方々の“心のよりどころ”に石川守る会がなれるように今後も努力していきたいと思っていますので皆様のご協力をお願いいたします。こんかいご協力頂きましたスタッフの方々にお礼申し上げます。